

ロジスティクス環境会議  
第5回委員長ミーティング

2005年12月7日(水)15:00～17:00  
浜松町東京會館 38F ウェーブ

次 第

1. 開 会

2. 議 事

- 1) 第1期の活動経過
- 2) 第2期の設立概要について
- 3) 第2期の検討テーマについて
- 4) その他

3. 閉 会

【配布資料】

資料1-1：企画運営委員会の活動経過

資料1-2：各委員会の活動経過

資料2：アウトプットの整理（素案）

資料3-1：第1期設立以降の社会環境変化

資料3-2：第1期活動の課題

資料4：第2期設立概要（素案）

資料5：第2期主な検討テーマ（素案）

参考資料1：第3回本会議における企画運営委員会からの提案の進捗状況

参考資料2：ランドデザイン

参考資料3：2005年度の活動ロードマップ

参考資料4：第1期CGL組織図

参考資料5：第4回委員長ミーティング議事録

以 上

## ロジスティクス環境会議の活動経過

環境会議の目的：循環型社会を実現するロジスティクスの構築

～個人が変わる、企業が変わる、物流が変わる～

環境会議の目標：行政・自治体・大学等の研究機関・関連団体と連携を図りながら、環境と調和したロジスティクス方針・活動を通じて、循環型社会を実現するロジスティクスの構築に取り組む企業を増やす。

### 1. 企画運営委員会

#### 1) 活動方針

- (1) 循環型社会を実現するロジスティクスを構築するため、委員会活動等を企画および推進し、メンバー間の合意形成を通じてアウトプット（成果）を創出する。
- (2) 委員会活動等を通じて創出されたアウトプット（成果）を啓発、普及し、循環型社会を実現するロジスティクスの構築に取り組む企業を増やす。

#### 2) 活動内容

- (1) ロジスティクス環境会議全体の活動における基本方針案の策定と本会議への提案
- (2) ロジスティクス環境会議（本会議）において合意された基本方針に基づく活動方針の策定および決定
- (3) 活動方針に基づく各委員会の目標設定と活動の計画および調整
- (4) 各委員会の取組み状況と目標に対する達成状況の把握
- (5) 各委員会の活動の積極的な支援ならびに委員会として組織化されていない重要テーマに関する実態調査等の企画および実施と組織化の検討および推進
- (6) 各委員会でまとめられた提案（提言案）の取りまとめと関係者への提言活動の実施
- (7) ロジスティクス環境会議における活動の意義や各委員会の活動経過、成果を広く啓発、普及するための活動の企画および推進
- (8) 省庁間との情報交換による連携推進および関係省庁に対する提言
- (9) 関連団体との情報交換による連携推進および関連団体に対する提言
- (10) 環境負荷低減に寄与する技術開発動向の把握と啓発活動、検証による要望の検討および整理と関係者への提案活動の推進

#### 【活動の総括】

上記の活動方針に基づき（目的および目標を達成するため）、各委員会活動と共に関係省庁、関連団体との連携を強化し、以下のような活動を行った。

#### ・グリーン物流パートナーシップ会議との連携

※ J I L S（環境会議事務局）が経済産業省（商務情報政策局 物流政策室）、国土交通省（政策統括官付）および日本経済団体連合会、日本物流団体連合会と運営事務局、CGLメンバー（一部）が各委員会の委員として参画。

※ 共同開催として、ロジスティクス環境シンポジウムを開催。

- ・改正省エネ法（省令）施行に向けた対応
  - ※荷主判断基準小委員会に J I L S（環境会議事務局）、C G Lメンバー（一部）が委員会の委員として参画。
  - ※荷主判断基準ならびに運輸事業者判断基準に対し、環境会議メンバーの意見要望をまとめ、経済産業省と国土交通省へ意見書を提出。
  - ※経済産業省（資源エネルギー庁）、国土交通省（環境・海洋課）との連携強化。
- ・環境会議の活動経過および成果の啓発普及活動の実施  
（ロジスティクス環境シンポジウムの開催）
- ・その他
  - 企業の人材育成支援
  - 「グリーンロジスティクスエキスパート講座」の開講

## 2. 広報・普及専門委員会

### 1) 『C G Lニュース』と『C G Lジャーナル』の企画

本会議をはじめ、各委員会の活動経過、成果等を以下のような情報発信を行った。

#### (1) 『C G Lニュース』（電子メール）

- ・速報的内容とし、2ヶ月1回発行

⇒24回発行（各回の発信日と内容は別紙参照）

#### (2) 『C G Lジャーナル』（冊子）

- ①各委員会の活動状況を集約し、4ヶ月1回発行

⇒第1号発行（2005年7月）

- ・ロジスティクス環境会議 第3回本会議報告
- ・国内施策動向：改正省エネ法の概要

- ②JILS機関誌『ロジスティクスシステム』にも活動の経過を掲載

⇒2004年10月号（各委員会経過報告）

⇒2005年8・9月号（改正省エネ法に対する意見要望）

### 2) シンポジウム、フォーラム等のイベントの実施

各委員会の活動成果等を広く情報発信するため年1回程度、シンポジウムやフォーラム等のイベントを開催した。

#### ①2004年度

「環境調和型ロジスティクス推進フォーラム」の開催

日 時：2004年12月17日（金）14:45～17:45

会 場：経団連会館

参加者：460名

※グリーン物流パートナーシップ会議との共催

②2005 年度

「ロジスティクス環境シンポジウム」(予定)

日 時：2006 年 2 月 3 日 (金) 13:30～16:50

会 場：アイビーホール青学会館

参加者：100 名

※グリーン物流パートナーシップ会議の時間枠の都合により共催なし

※国土交通省の「商慣行の改善と物流効率化に関する基礎調査」事業との連携

※パネルディスカッションのパネラーとして経済産業省参画

3) オブザーバー会議の企画

オブザーバーである各省庁との情報交換による連携推進および関係省庁に対する提言活動を推進するため、オブザーバー会議を企画する。

※参加メンバーは、原則として企画運営委員を中心とする。

4) 関連団体会議の企画

関連団体との情報交換による連携推進および関連団体に対する提言活動を推進するため、関連団体会議を企画する。

※参加メンバーは、原則として企画運営委員を中心とする。

**3)、4) はグリーン物流パートナーシップ会議等との連携による推進**

ロジスティクス環境会議  
各委員会の活動経過

【凡例】○：作成済、△：作成中

1. 環境パフォーマンス評価手法検討委員会			
【活動方針】			
1) ロジスティクス活動の環境負荷を定量的に把握、評価し、環境負荷を低減するため、荷主企業と物流企業等が相互に連携し、標準的な環境パフォーマンス指標を整備する。			
2) 標準的な環境パフォーマンス指標を広く公開し、関係者に提言する。			
※環境パフォーマンス指標の標準化			
(1)環境パフォーマンス指標の算出、評価の範囲			
(2)環境パフォーマンスの評価指標 ※CO <sub>2</sub> (京都議定書)、その他			
(3)環境パフォーマンス指標の算出方法			
【アウトプットの計画と実績】			
2004年度	標準的な環境パフォーマンス評価方法の例示	○	『二酸化炭素排出量按分ガイド/トラック輸送版』
	マニュアル	○	※「経営指標」は次期見送り
	環境パフォーマンスの算出結果のデータ集	△	CGLメンバーによる燃料法、燃費方、トコ法の実証結果のまとめ中
2005年度	二酸化炭素排出量按分ガイド/トラック輸送版	△	
第2期へ継続するテーマ：経営指標とロジスティクス活動の関連付けの例示、包装資材や鉄道など他モードの環境負荷排出量算定ガイド など			

2. 源流管理による環境改善委員会			
【活動方針】			
1) ロジスティクスの分野から環境負荷低減に取り組むため、荷主企業のロジスティクス・物流部門、物流企業として現状の物流活動をチェックし、見直すための視点とその内容をまとめる。			
2) 合意された内容はマニュアル形式に整理し、関係者の環境活動を支援する。			
【アウトプットの計画と実績】			
2004年度	マニュアル	(1)	
2005年度	(1)各企業が守るべきこと(法令、条例遵守事項) (2)各企業がやるべきこと及び対策 ・荷主企業(製造業・流通業等)の物流・ロジスティクス部門 ※物流・ロジスティクス部門が直接管理可能な範囲 ・物流企業(運送業・倉庫業等)	○ (2)	『ロジスティクス源流管理マニュアル ver.1』 ※(1)は共通基盤整備委員会にて作成 (HP 掲載中) ・ロジスティクス・物流部門の視点からモーダルシフト対応のマニュアルを作成中 ・マニュアルの見易やすくするために修正中
第2期へ継続するテーマ：荷主企業のロジスティクス・物流部門から企画・設計、生産、販売、環境等の他部門への協力要請する内容のまとめ など			

3. 省資源ロジスティクス推進委員会			
【活動方針】			
1) 省資源・省エネルギーの視点から、サプライチェーンを構成する荷主企業(発荷主・着荷主)と物流企業等が一体となって物流の環境負荷を低減するため、物流諸活動の事例収集を行い、その内容を整理する。			
2) 荷主企業(発荷主・着荷主)と物流企業等が一体となって、課題解決のための方向性をまとめ、関係者に提案する。			
【アウトプットの計画と実績】			
2004年度	企業(間)の各種物流施策の事例集	○	『省資源ロジスティクス事例集』
2005年度	ガイドライン (1)複数企業間、業際間の各種物流施策に対する課題の整理 (2)省資源ロジスティクスを推進するための方針のまとめ	△	作成中 ・発荷主・着荷主・物流企業間でどのようなことに留意し、実行すればCO <sub>2</sub> とコストが削減するかなどの観点からまとめる。 ・荷主企業(発荷主・着荷主)と物流企業等が一体となって環境負荷低減とコスト低減の両立化の実現 ・物流の構造的問題の顕在化および定量化(わが国の高コスト物流体質の原因の解明) ・物流企業の活動に着目し、積載率等の物流効率化阻害要因の把握
第2期へ継続するテーマ：問題、課題の掘り下げと定量化、効果測定、改善シナリオ など			

ロジスティクス環境会議  
各委員会の活動経過

【凡例】○：作成済、△：作成中

4. リバースロジスティクス調査委員会			
【活動方針】			
1) 循環型社会形成に向けて、今後本格的に必要とされるリユース、リサイクルに関わるリバースロジスティクスのモデル(あるべき姿)をまとめる。			
2) 消費者における還流管理の促進を含め、リバースロジスティクスモデルの構築が可能となる環境整備を促進するため、関係者に対して提案を行う			
【アウトプットの計画と実績】			
2004年度			作成中
2005年度	1.家電・OA機器 共同化、標準化、法規制などについて、更に詳細調査し、実現策と提言をより現実的なものにする 2.自動車 リサイクル部品・廃タイヤの深堀調査を継続、実現策と提言を更に現実的なものにする ASRのリサイクル法によるリサイクル実績調査と、 (問題あれば) 解決策考察と提言作成 3.食品 川下(消費者・小売・卸)におけるリサイクル率向上のため、共同回収→再資源化の流れの構築を目指す。実現可能な範囲で、返品物流の共同回収モデルを踏まえた提言も作成 4.物流(包装資材) パレット共同回収の実態および宅配便包装資材の廃棄状況の実態を調査し、リサイクル率向上の具体的策と提言を作成	△	
第2期へ継続するテーマ：問題、課題の掘り下げと定量化、効果測定、改善シナリオ など			

5. 共通基盤整備委員会			
【活動方針】			
環境会議及び各委員会の円滑かつ効果的な活動を支える共通的な「情報資源」を整備する			
【アウトプットの計画と実績】			
2004年度	用語集	△	HPにて一部公開中
	URLリンク集	○	HPにて公開中
	研究会	○	4回開催
2005年度	関連法規	○	HPにて公開中
	企業の環境報告書作成ガイド(基本フォーマット) 物流サブセット	△	各企業から発行された「2004年度版」の実態調査を中心に現在作成中
	研究会	△	8回開催(12月7日時点)
	講習会(セミナー)	△	第1回 2005年7月28日(木) 開催 第2回 2006年1月下旬開催予定
第2期へ継続するテーマ：関連法規、企業の環境報告書作成ガイド など			

## 第 1 期ロジスティクス環境会議 アウトプットの整理（素案）

各委員会で作成されたアウトプット（成果物）は、CGLメンバーがCO<sub>2</sub>等の環境負荷とコストを低減する活動を推進する際に活用されることが期待される。

CO<sub>2</sub>等の環境負荷とコストを低減する活動に積極的に取り組むことを環境会議メンバーに確認する文書として、「ロジスティクス環境宣言（仮）」を作成してはどうか。

ロジスティクス環境会議メンバーは、循環型社会を実現するロジスティクスを構築するため、発荷主企業・着荷主企業・物流企業は、目標や課題を共有し、包装、輸送、保管荷役の領域におけるCO<sub>2</sub>等の環境負荷とコストを低減する環境と調和したロジスティクス（以下、グリーンロジスティクス）活動に積極的に取り組む。

グリーンロジスティクス活動を展開するため、必要に応じて環境会議のアウトプットである各種ツールを活用し、継続的にPDCAを推進する。

特に、チェック（C）段階においては、グリーンロジスティクス活動は定量的に把握、評価すると共に、数値の算定根拠を明らかにし、企業の社会的な責任として、環境報告書等で第三者に公開する。

## PLAN

- ⇒ 基本的な考え方  
『源流管理マニュアル』
- ⇒ 活動すべき施策  
『源流管理マニュアル』

## DO

- ⇒ 実施段階での他社活動の参照や活動の見直しなど  
『省資源ロジスティクス事例集』  
『省資源ロジスティクスガイド』

## CHECK

- ⇒ 活動の定量的把握と評価  
『二酸化炭素排出量算定ガイド／トラック輸送版』
- ⇒ 活動結果の報告  
『企業の環境報告書・・・』

## ACTION

上記のフローでCO<sub>2</sub>等の環境負荷とコストを低減する活動を計画、実施、評価する。  
なお、リバースの分野については問題点の所在や課題を見出すため、以下の調査報告書を参照されたい。

- ⇒ 『業界静脈共同物流プラットフォーム構築調査』  
※家電OA、自動車、食品、物流分野

その他、関連情報や用語については、以下のツールを参照されたい。

- ⇒ 用語集  
関連法規  
関連リンク集  
など

以 上

第 2 期ロジスティクス環境会議の検討にあたって (1)  
第 1 期設立 (2003 年 11 月) 以降の社会環境変化

第 1 期ロジスティクス環境会議 (以下、CGL) 活動の総括を踏まえ、第 2 期 CGL の企画検討を行うにあたり、行政 (関係各省) における施策動向および企業対応など社会環境変化を確認したうえで、検討する必要がある。

以下内容は、主に、11 月 15 日に閣議決定された「総合物流政策大綱(2005-2009)」および総合物流施策推進協議会にて作成された「今後推進すべき具体的な物流施策」から抜粋したものを中心に記載している。

1. 行政動向

1) 京都議定書発効

CO<sub>2</sub> 排出削減量 6 %削減約束

2) 総合物流施策大綱 (2005-2009)

**施策概要: 「グリーン物流」など効率的で環境に優しい物流の実現**

(荷主企業と物流企業の連携・協働—パートナーシップの構築による社会的課題への適確な対応)

※京都議定書発効による環境対策の充実強化の必要

3) 「エネルギーの使用の合理化に関する法律の一部を改正する法律

／改正省エネ法 (2006.4.1)

4) 「流通業務の総合化及び効率化の促進に関する法律」(2005.10)

※ 環境会議設立以前

1) 地球温暖化対策推進法

2) 循環型社会形成推進基本法

3) 資源有効利用促進法

4) 廃棄物処理法

5) 各種リサイクル法

6) その他

## 2. 総合物流施策大綱（2005-2009）における環境に係わるポイント

### 具体的施策：効率的で環境負荷の小さい物流

#### (1) グリーン物流の推進

##### ○グリーン物流パートナーシップ会議の活用

運輸分野におけるCO<sub>2</sub>削減目標の達成に向けて、荷主・物流事業者が一体となった取組を推進する。具体的には、「グリーン物流パートナーシップ会議」を活用し、モーダルシフト、低公害車の導入、物流拠点の再編・合理化、3PLの促進、エコドライブの促進等による裾野の広い活動を展開する。

##### ○エネルギー使用の合理化

物流分野におけるエネルギー使用の合理化を一層進め、CO<sub>2</sub>排出量の抑制を図るため、省エネ法に基づき、一定規模以上の輸送事業者、荷主に対し、省エネルギー計画の策定、エネルギー使用量の報告の義務付け等の措置を講ずる。

##### ○静脈物流の効率化等の推進

循環型社会形成を図るため、リサイクルポートにおける保管施設等の整備拡充を支援し、効率的な静脈物流システムの構築を推進する。

※「循環型社会形成推進基本法」における3Rに関する基本原則を踏まえ、使い捨て包装資材を削減するため、標準化されたパレットや通い容器といった再使用型の資材の普及を促進する。

##### ○貨物交通のマネジメントの推進

環境に優しく効率的な物流を実現するため、弾力的な料金施策等による適切な経路・時間帯への誘導を図るとともに、交通渋滞の緩和や環境負荷の軽減を図るため、ハード・ソフト一体となった駐車対策等を地域の関係者との連携により推進する。

##### ※商慣行のあり方の検討

リベート、返品制度、多頻度配送、店着価格制等の商慣行がサプライチェーンマネジメントの効率性を阻害しないようにするため、今後、商慣行が全体最適化を阻害している事例を明らかにし、その改善方策の検討を行う。

##### ○情報化・標準化の推進

迅速で効率的なサプライチェーンマネジメントを実現するため、EDI、電子タグ、パレット等の標準化普及を図るとともに、交通の円滑化や環境負荷の軽減を図るため、ITS（高度道路交通システム）の高度利用を促進する。

##### ○物流効率化を支える人材の育成等

3PL事業の促進のため、提案営業力、コンサルティング能力等を備えた人材の育成を図る。

※企業において環境負荷の現状を定量的に把握し、その低減のための循環型システムを計画立案、推進、評価できる人材の育成講座を開催する。

## 第 2 期ロジスティクス環境会議の検討にあたって (2)

## 第 1 期活動の課題

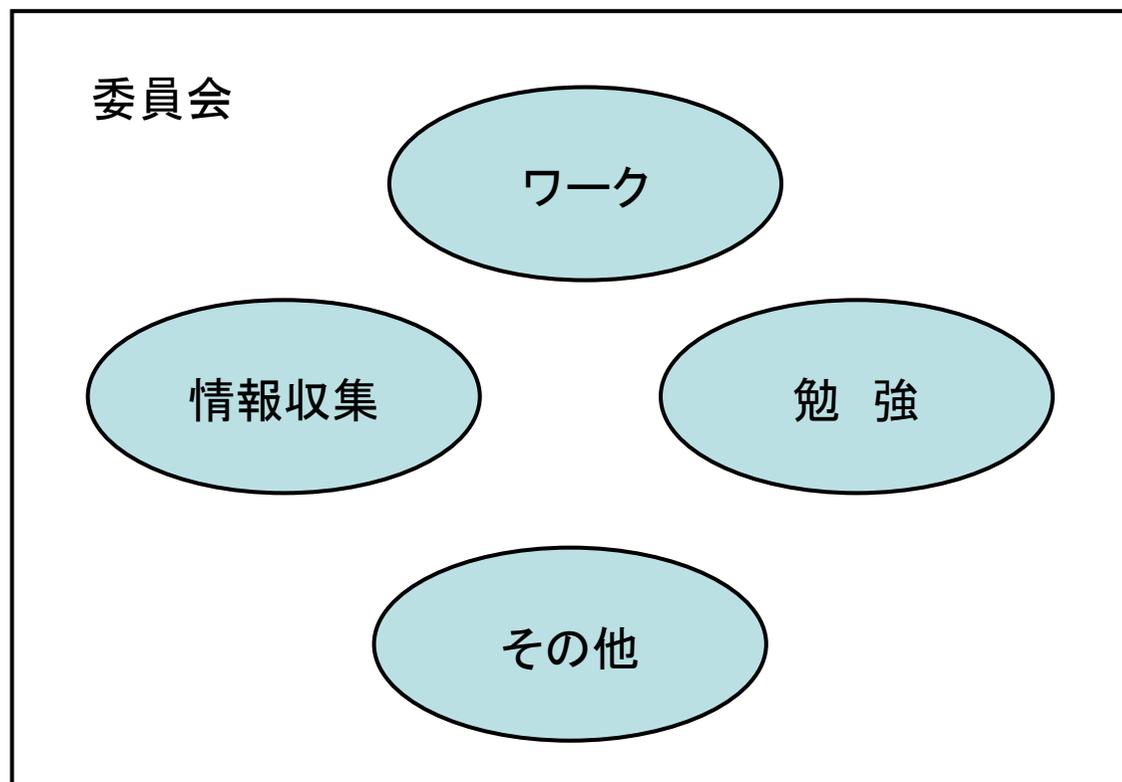
## ～第 4 回委員長ミーティングにおける意見から～

- ・取り組むべき内容が高度になってきている。また、メンバーの能力の限界や転勤等によるメンバーの交代などもあり、テーマを決めても、その課題を解決できるかどうか不透明である。
- ・メンバー企業の各委員会での参加率を確認してはどうか。また欠席が多い企業については、自社業務多忙なのか、環境会議の活動に魅力がないのか、(環境会議の活動の) 負担が重くなるのを避けたいのかについて把握する必要がある。
- ・メンバーは参加意図として、社会の役に立ちたいという企業もあれば、勉強目的の企業もある。CGLとしてどのような活動を行い、そのためにどのようなメンバーを集めるのかを決めることが必要であると考え。アウトプットを作成するチームと勉強目的のチームという 2 つのチームに分けて活動するのも一つの案だと考える。
- ・活動を普及啓発に絞る方法もある。 など

以 上

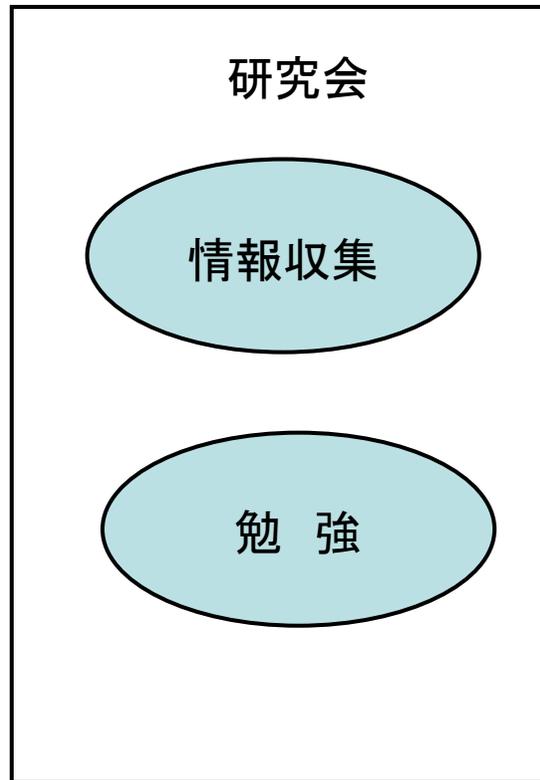
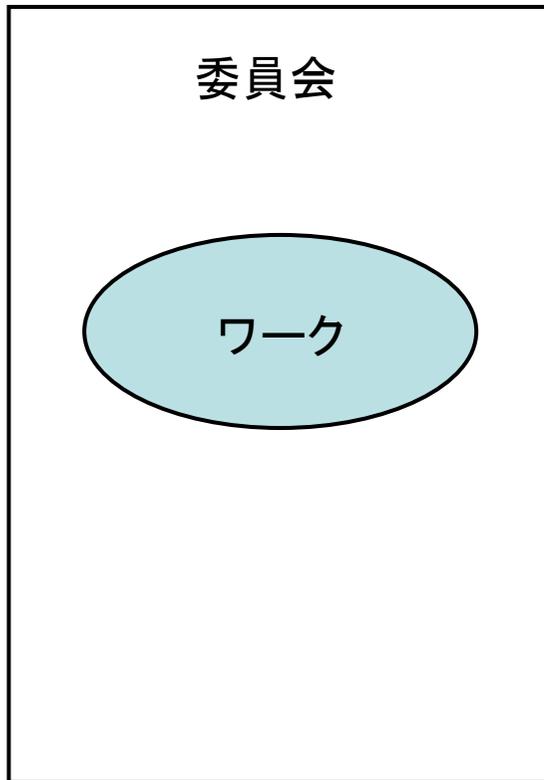
# ロジスティクス環境会議 メンバーにおける委員会の位置づけ

## 【現 状】



※問題！  
・「ワーク」と「情報収集」「勉強」のギャップ

【改善案】



※課題

・「ワーク」する人を吸引する企画、アウトプットの提示

## ロジスティクス環境会議 第2期設立概要(素案)

以下に示す素案の中で、企画運営委員会の構成および委員会登録について、第1期とは異なる代替案を作成している。

本資料では特に上記2点を中心にご議論いただきたい。

### 1. 名 称：ロジスティクス環境会議（第2期）

英文名称：Conference on Green Logistics in Japan

### 2. 目 的：循環型社会を実現するロジスティクスの構築

～個人が変わる、企業が変わる、物流が変わる～

### 3. 目 標：行政・自治体・大学等の研究機関・関連団体と連携を図りながら、環境と調和したロジスティクス方針・活動を通じて循環型社会を実現するロジスティクスの構築に取り組む企業を増やす。

### 4. グランドデザインの実現に向けた活動：

- 1) 環境パフォーマンス評価の推進
- 2) 源流管理<sup>※1</sup>の確立
- 3) サプライチェーンの環境負荷低減と効率化の推進
- 4) リバースチェーンの適正化と効率化の推進
- 5) 1) から4) の実現を支援する情報通信等の技術の整備

※1：企業の社会的責任として、ライフサイクル全体にわたって環境負荷を低減するため、ロジスティクスの視点から、リデュース(省資源・省エネルギー)、リユース(再利用)、リサイクル(再生使用)の実現を目指した製品、荷姿の設計や物流のプロセスを構築すること。

### 5. グランドデザインの実現に向けた関係者の連携推進：

メンバー等の関係者は発荷主企業、物流企業、着荷主企業等と行政の関係者がそれぞれの立場を理解したうえで、第1期の活動成果を踏まえ、循環型社会の形成に寄与するロジスティクスの構築を真摯に考え、関係者がグランドデザイン実現に向けた議論を重ね、実現に向けた到達目標を設定したロードマップを作成し、ステップバイステップで実行する。

### 6. 期 間

2006年4月～2009年3月（3カ年）

## 7. 募集対象メンバー

循環型社会の形成に向かって、源流管理等の徹底によって環境負荷とコストを低減するため、サプライチェーン・リバースチェーンにおける物流の適正化および効率化を他メンバーと一体となって、その活動に貢献したい、または研究、実践していきたいと考えている、製造業・流通業・物流事業者・情報通信等の機器の製造およびサービス業・シンクタンク・コンサルティングファーム、自治体等。

## 8. 組織

### 1) ロジスティクス環境会議（本会議）

#### (1) 役割

- ①ロジスティクス環境会議の基本方針を定める。
- ②ロジスティクスの視点から企業間にわたる環境負荷低減を実現するための合意形成を行う。
- ③合意事項の普及啓発と関係者に対する提言を行う。

#### (2) 構成

- ①正副議長：JILSの会長、副会長
- ②メンバー：企業の経営執行上の責任者、自治体の運営上の責任者
- ③特別メンバー：ロジスティクスおよび環境問題に取り組む学識経験者・関連団体・消費者団体等
- ④オブザーバー：関係各省、各課

### 2) 企画運営委員会

#### (1) 役割

- ①ロジスティクス環境会議全体の活動の基本方針案を策定し、本会議に提案する。
- ②ロジスティクス環境会議にて合意された基本方針に基づき、活動方針を策定し決定する。
- ③活動方針に基づく各委員会の目標設定と活動計画及び活動の調整を行う。
- ④各委員会の取組み状況と目標に対する達成状況を把握する。
- ⑤各委員会の活動を積極的に支援すると共に、以下の機能と役割を担う。
  - ・委員会として組織化されていない重要なテーマについては、本委員会の下に実態調査等を行い、必要な時期に委員会を組織する。
  - ・各委員会でまとめられた提案および提言案を取りまとめ、該当者に提出する。
  - ・広報・普及啓発活動の企画および実施と関連団体との連携を図り、活動の効率化を推進する。
  - ・技術開発の要望を検討および整理し、関係者に提案活動を行う。

#### (2) 構成

メンバー：(11～16名程度)

- ①委員長 一橋大学 学長 杉山氏
- ②委員 各委員会の正副委員長

※第1期：各委員会の正副委員長及び主要メンバーと学識経験者等で構成する。23名で構成。

3) 委員会 ※委員長ミーティングにおける意見を受けて、2案作成

**A 案** ⇒メンバー間の参画目的に併せて、「研究会」を新たに設置

■委員会

(1) 役割

目標を達成するため、各委員会は主体的にテーマや内容を設定し、具体的な議論を重ねて合意形成を図りながら、ステップバイステップで環境負荷を低減するロジスティクスを構築する。

(2) 構成

本会議メンバーの意向を受けた、実務上の責任者または担当者と学識経験者で構成する。

■研究会

(1) 役割

各委員会の活動経過や行政等の関係情報の収集を行うため、企画運営委員会が主催する各種研究会等に参加し、自社および関係企業の環境負荷を低減する活動を推進する。

(2) 構成

本会議メンバーの意向を受けた、実務上の責任者または担当者と学識経験者で構成する。

**B 案** ⇒第1期同様、原則としてメンバーは委員会に登録する。

■委員会

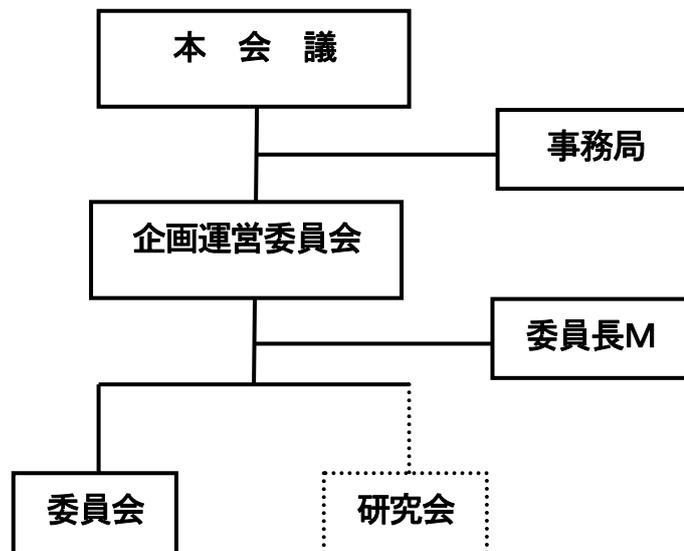
(1) 役割

目標を達成するため、各委員会は主体的にテーマや内容を設定し、具体的な議論を重ねて合意形成を図りながら、ステップバイステップで環境負荷を低減するロジスティクスを構築する。

(2) 構成

本会議メンバーの意向を受けた、実務上の責任者または担当者と学識経験者で構成する。

4) 組織イメージ図



以上

第2期ロジスティクス環境会議  
主な検討テーマ（素案）

1. 環境負荷とコストを低減するサプライチェーン構築の推進
  - 1) 主な検討内容  
発荷主企業、着荷主企業、物流企業間における取引条件改善の推進  
・店着価格制度   ・返品条件   ・時間指定（計画性の無いもの） など
  - 2) アウトプットイメージ
    - ①『取引条件改善のロードマップ（仮称）』
    - ②『標準契約書』など  
⇒第1期活動委員会「省資源ロジスティクス推進委員会」
  - 3) 対象とする主な製品郡など  
・家電、OA、PC、プリンタなど   ・加工食品など   ・その他
  
2. 適正かつ効率的な静脈物流を推進するリバースチェーン構築の推進
  - 1) 主な検討内容  
複数業界における共同物流プラットフォームの効率的な構築の推進  
・共同配送条件（取引条件含）   ・情報システム（受発注、トレースなど） など
  - 2) アウトプットイメージ
    - ①『リバース共同物流プラットフォーム推進事例集』
    - ②『リバース共同物流情報化推進のロードマップ』など  
⇒第1期活動委員会「リバースロジスティクス調査委員会」
  - 3) 対象とする主な製品郡など  
・家電、OA、PC、プリンタなど   ・加工食品など   ・その他
  
3. 環境パフォーマンス算定の推進
  - 1) 主な検討内容  
・負担責任等のルール   ・按分方法検証（LEMSの検証） など
  - 2) アウトプットイメージ  
『按分方法手引書および手順書』 など  
⇒第1期活動委員会「環境パフォーマンス評価手法検討委員会」
  
4. 源流管理（循環型ロジスティクス）の推進
  - 1) 主な検討内容  
「サプライチェーン」、「リバースチェーン」等の内容を整理し、企画・設計・製造段階で考慮すべき要件（リユース・リサイクルの促進含）のまとめ など  
※『源流管理マニュアル』のバージョンアップ
  - 2) アウトプットイメージ  
『源流管理（循環型ロジスティクス推進）マニュアル』 など  
⇒第1期活動委員会「源流管理による環境改善委員会」

## 5. グランドデザイン推進のビジョン・アクションプランの策定

### 1) 主な検討内容

- ・モーダルシフト等の環境負荷を低減する施策を企業が推進するうえでの課題や行政の役割等の整理および関係者への提案 など
- ・CO<sub>2</sub>等排出者責任等のルール ・グランドデザインの事業モデル など

### 2) アウトプットイメージ

- ①『グランドデザイン推進ビジョン』
  - ②『グランドデザインの事業モデル』
  - ③『CO<sub>2</sub>等排出者責任手引書』 など
- ⇒第2期新規

## 6. 情報通信技術等の調査研究と実証

### 1) 主な検討内容

シームレスかつ効率的な企業間コミュニケーションの実現化 など

※CO<sub>2</sub>等の算定のためのデータ収集支援など含む

- ・データ収集ツールの活用（バーコード、RFID など）
- ・データ交換ツールの活用（EDI、インターネットEDI など）
- ・データベースの活用（道路地図、交通情報など） ・その他

### 2) アウトプットイメージ

『情報通信技術活用のロードマップ』 など

⇒第2期新規

## 7. その他

### ① 関係行政機関に対する提言

⇒第1期活動委員会「企画運営委員会」

### ② 企業の環境報告書の調査研究（ガイド作成：ロジスティクスサブセット版）

⇒第1期活動委員会「共通基盤整備委員会」

### ③ 海外の各種情報の調査研究

⇒第1期活動委員会「共通基盤整備委員会」

### ④ 企業のベンチマーキングのための基礎データの整備

⇒第2期新規

※モーダルシフト化率や積載効率 など

### ⑤ 人材育成メニューの企画

⇒第2期新規

### ⑥ その他

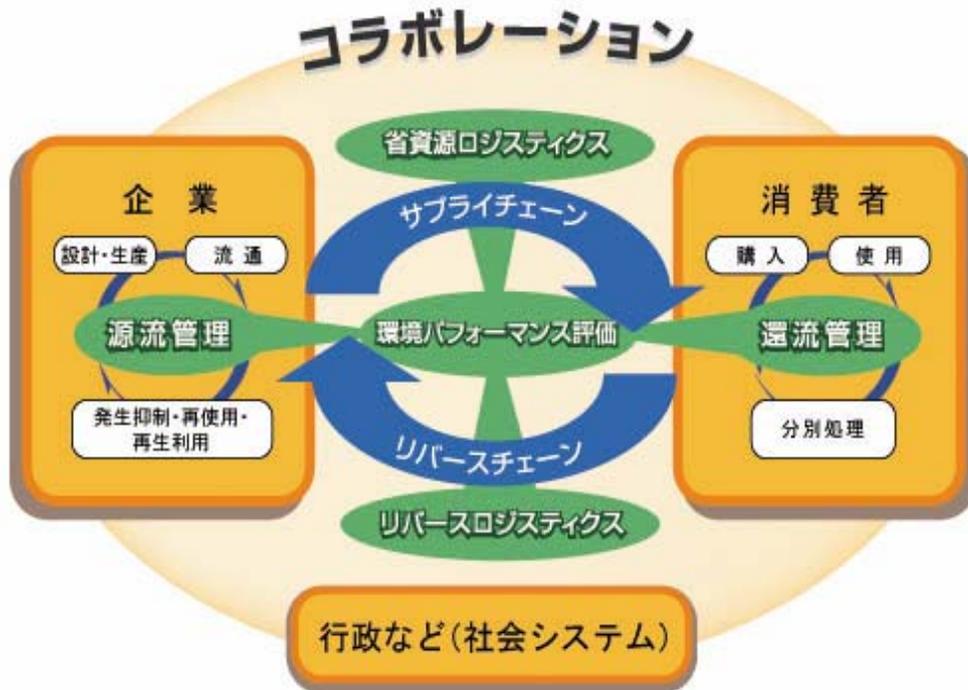
以 上

### 第3回本会議における企画運営委員会からの提案の進捗状況

1. トラック輸配送に関する二酸化炭素排出量算定式について
  - 1) 算定式試用（検証）の要請
    - ・メンバー向け説明会を実施（9月21日、午後2回実施）
    - ・調査結果⇒参考資料1参照
  - 2) 排出係数、排出原単位の標準的な値の整備とその維持管理に関する要望
    - ・「改正省エネ法」に対する意見要望書を経済産業省ならびに国土交通省へ提出。
2. リバースロジスティクスの共通プラットフォーム構築の着手について
  - 1) 関係データの提供ならびにヒアリング等の調査の協力要請
    - ・リバースロジスティクス調査委員会にて、CGL（該当業種）メンバーへの調査を実施
  - 2) 関連法制度に関する関係行政機関との意見交換の実施
    - ・問題点の裏づけを調査
    - ・環境省へ打診中
3. 関連法制度に関する関係行政機関とCGLメンバーとの課題の共有  
(関連法制度に関する関係行政機関とCGLメンバーとの意見交換会実施の要望)
  - ・改正省エネ法に関する活動にて実施
  - ・今後も法令、省令の見直しが想定されるため、企画運営委員会を中心に活動を展開。

以 上

## 循環型社会を実現するロジスティクス・ランドデザイン



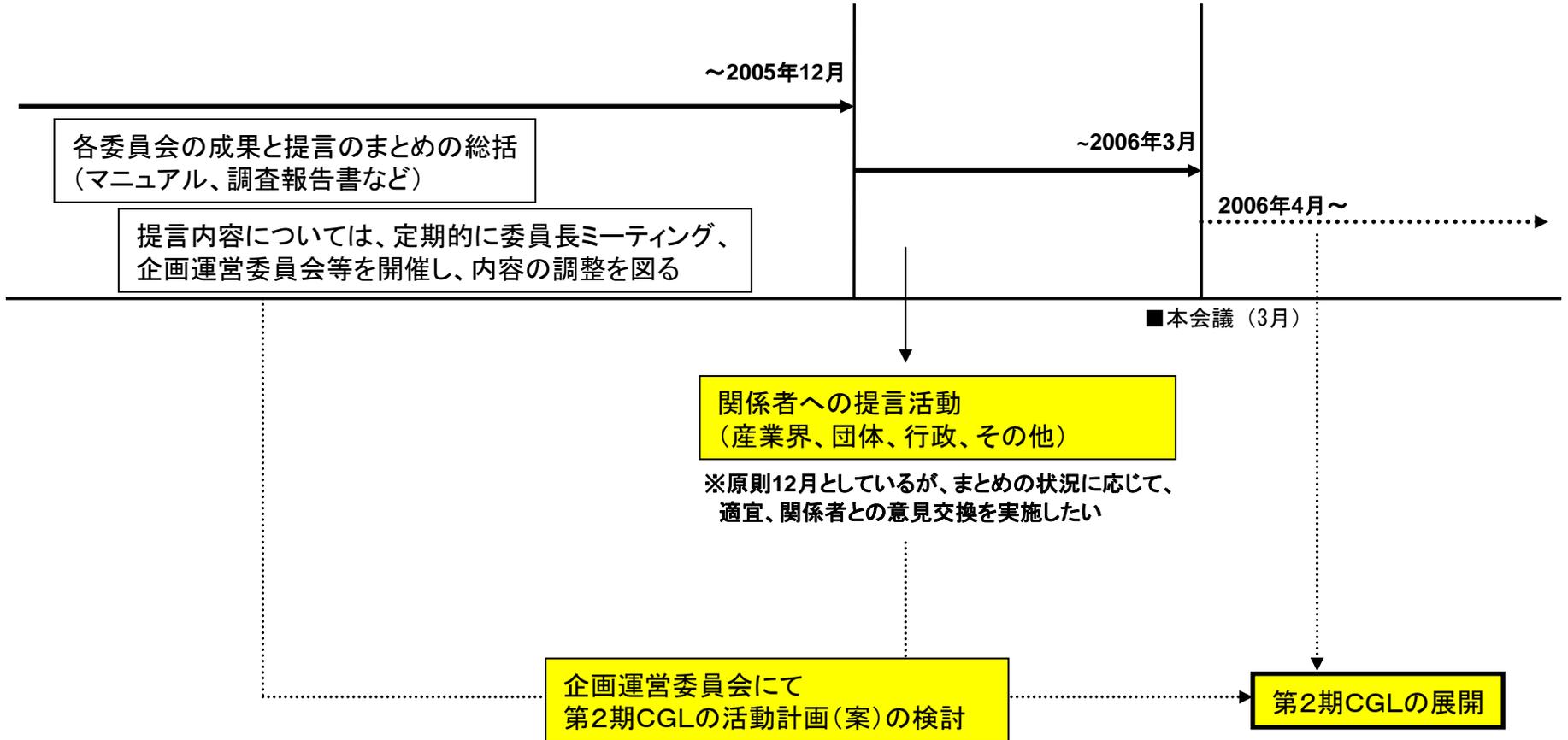
調達、生産、流通、消費の諸活動とそれらの過程を経て発生する廃棄物の処理の行為は、環境汚染や環境破壊など、環境に対して様々な負荷を与えます。私達の世代は健全な地球環境と社会環境とを（人類生存の大前提である）最も重要な財産として、将来の世代に引き継ぐ責務を有しています。その責務を果たすべく、ロジスティクスにおいても、環境への調和、環境との共生、環境改善への積極的貢献、を最優先に考えねばなりません。

ロジスティクスには、再使用や循環などの視点に加え、素材の選択や廃棄物の処理のあり方で視野を広げ、環境への負荷に適切に配慮しつつ、費用対効果を最適化することが必要です。

JILS は 21 世紀の循環型経済における、ロジスティクス活動のあるべき姿として「環境と調和した循環型社会を支えるロジスティクス」を提唱します。

循環型の経済活動を、ロジスティクスを通じて実現したいという思いを込めて、「循環型社会を実現するロジスティクス・ランドデザイン」を提案します。

以上



# ロジスティクス環境会議 組織図

参考資料 4  
2005. 12. 7

2005.11.9現在

※敬称略

議長:張 富士夫

トヨタ自動車(株) 取締役副会長

副議長:鈴木 武

味の素(株) 技術特別顧問

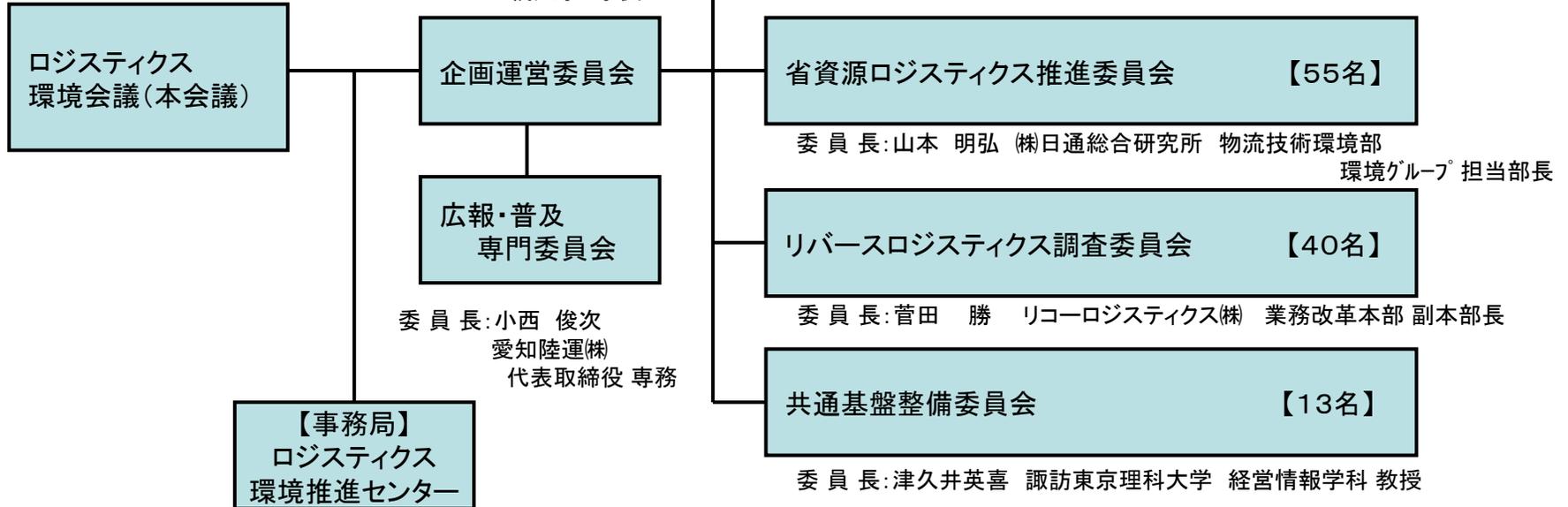
副議長:岡部 正彦

日本通運(株) 代表取締役会長

副議長:鈴木 敏文

(株)イトーヨーカ堂 代表取締役会長 CEO

メンバー:109社



ロジスティクス環境会議  
第4回委員長ミーティング 議事録

I. 日 時：2005年11月10日（木） 15：30～17：30

II. 場 所：東京・港区 （社）日本ロジスティクスシステム協会 会議室

III. 出席者：10名

IV. 内 容：

- 1) 各委員会の活動経過
- 2) 第3回本会議における企画運営委員会からの提案の進捗状況について
- 3) 第1期ロジスティクス環境会議の活動成果（予定）について
- 4) 第1期で積み残したテーマおよび第1期末着手のテーマについて

V. 開 会

事務局の徳田の司会進行のもと、以下のとおり議事が進められた。

1) 各委員会の経過報告

事務局より、資料1-1に基づき、各委員会の活動経過について報告が行われた後、以下のような意見交換がなされた。

【主な意見】

委 員：資料1-1の右列については、2005年3月に策定した活動計画と現時点での活動経過を分けて記載すべきではないか。

事務局：ご指摘のとおり、修正する。

委 員：2005年3月に策定した計画に対しての進捗状況について教えていただきたい。

事務局：下記のとおりである。

①環境パフォーマンス評価手法検討委員会

- ・『二酸化炭素排出量按分ガイド／トラック輸送版』（仮称）→これから着手する
- ・『包装資材の環境負荷排出量算定ガイド』（仮称）→次期活動に見送る
- ・『CGLメンバー企業の二酸化炭素排出量算定データ集』（仮称）→作成中

②源流管理による環境改善委員会

『ロジスティクス源流管理マニュアル』のまとめとして

- ・抜け漏れと文章や図表等の見易さ等の確認および改善→作成中
- ・モーダルシフト対応のマニュアル→作成中
- ・荷主企業のロジスティクス・物流部門から企画・設計、生産、販売、環境等の他部門への協力要請する内容のまとめ→次期活動に見送る

③省資源ロジスティクス推進委員会

『省資源ロジスティクス推進ガイドライン』（仮称）→着手中だが、進捗は遅れている。

④リバースロジスティクス調査委員会

- ・家電・OA機器、自動車→着手中で、何らかの問題点は出せる見通し。
- ・食品、物流（包装資材）→着手しているが、仕組みの実現可能性の評価が難しい。
- ・廃掃法の課題→休止中。メンバーから意見を集めたが、整理ができておらず、環境省との情報交換も実施できていない。

⑤共通基盤整備委員会

- ・『用語集』→完了し、ホームページで公開中
- ・『URLリンク集』→完了し、ホームページで公開中
- ・『関連法規の体系（WEB版）集』→完了し、ホームページで公開中
- ・『環境に関する国際動向の調査レポート』（仮称）→未実施
- ・『企業の環境報告書作成ガイド（基本フォーマット）物流サブセット版（仮）』→着手中
- ・講習会（セミナー）の開催（2回／年）→第1回講習会、7月28日（木）開催
- ・研究会の開催（1回／原則毎月）→実施中

委員：来年4月に施行される改正省エネ法への対応のためには、二酸化炭素排出量の按分ガイドが必要になるのではないかと。

委員：本年度のLEMSの着手が遅れたため、まだ未着手である。また、本来LEMSで検討したものをCGLにおいて実現可能性を実証することが理想であるが、実証する時間はない。

委員：源流管理については、改正省エネ法の荷主判断基準の内容を具体的に実施する際のマニュアルとしての完成イメージを持って検討をしていたが、そこまでには至っていない。

委員：共通基盤整備委員会で進めている環境報告書のガイド作成にあたって各社の環境報告書を調べているとのことであったが、環境パフォーマンスの算定方法や按分方法などについても確認しているのか。

委員：環境パフォーマンスが定量化されているかどうか、また算定方法が記載されているかどうかを確認するにとどまっている。現時点では、定量化されている割合が1割程度である。

委員：結果は公表するのか。

事務局：公表する。

#### 【決定事項】

- ・資料1-1の右列の構成を変更する。

### 2) 第3回本会議における企画運営委員会からの提案の進捗状況

事務局より、資料1-2に基づき、説明が行われたのち、以下の意見交換が行われた。

#### 【主な意見】

委員：改正省エネ法の荷主判断基準および輸送事業者判断基準に対しては、CGLとして意見書を提出したが、全日本トラック協会等の他団体が、どのような内容の意見書を提出したか事務局として把握しているか。

事務局：把握していない。

委員：今回の改正省エネ法に限らず、全日本トラック協会や物流連の意見書の内容に目を通したことがあるが、CGLのように検討項目ごとに意見を述べているものではなく、理念を端的に書いているだけだった。

### 3) 第1期ロジスティクス環境会議の活動成果（予定）について

事務局より、資料2に基づき、説明が行われたのち、以下の意見交換が行われた。

#### 【主な意見】

委員：共通基盤整備委員会が作成した関連法規の体系等も資料2に記載すべきではないか。

委員：4) (2)「各種リサイクル法および廃棄物処理法の課題整理」とあるが、実際は一部分の課題整理を行っているだけであり、タイトルとのギャップがある。

委員：3)「環境負荷の算定方法の精緻化と普及」とあるが、実際の活動は、実行可能性の把握や実施方法の確認といったことであり、“精緻化”という言葉はふさわしくない。

事務局：ご意見をもとに、修正する。

委員：CGLに参加したことで、CGLメンバーはどのような利点があったのか、また何ができるようになったのか、という視点での活動成果も必要ではないか。

- 委員：①環境報告書に最低限これだけは記載しなければならない事項の整理（共通基盤）、②環境報告書に定量的な記載するために必要となる算定方法（環境P）、③環境負荷を下げるためには具体的に何をすべきかというマニュアル（源流管理）、④それでも下げられない場合に参考とする他社の事例や取引条件の問題（省資源）、ということで一応準備はできたのではないかと考える。
- 委員：第4回本会議において、CGLメンバーとして環境報告書に記載すべき項目を提案することも一つの方法だと考える。
- 委員：CGLメンバーにとっては、実務に直結するものがメリットになると思う。したがって、省資源が現在進めている調査はたいへん貴重なものになるのではないかと。
- 委員：家電等でリサイクル券が使われているが、そのお金が解体業者に回ってきていないという話を聞いたことがある。
- 委員：経済的に成り立つ仕組みが必要ではないか。
- 事務局：必要に応じて問題点を整理する。
- 委員：CGL設立前と比べて、環境へ取り組む企業が増えたかどうかは難しいが、環境に関する関心が高まってきていると考える。
- 事務局：CGLのメンバー企業は110社であるが、グリーン物流パートナーシップ会議参加企業が2,600社近くあり、環境負荷低減に向けた裾野が広がっていることは確かだと考える。
- 委員：2004年12月18日に開催したロジスティクスシンポジウムのパネルディスカッションにおいて、経済産業省、国土交通省両省の課長をパネリストとして壇上に上げたのはCGLの成果だと思う。

#### 【決定事項】

- ・本日の議論を受けて、再度活動成果を整理する。

#### 4) 第1期で積み残したテーマおよび第1期末着手のテーマについて

事務局より、資料3に基づき、説明が行われた後、以下の意見交換が行われた。

#### 【主な意見】

(テーマについて)

- 委員：取り組むべき内容が高度になってきている。また、メンバーの能力の限界や転勤等によるメンバーの交代などもあり、テーマを決めてもそれを課題を解決できるかどうか不透明である。
- 委員：メンバー企業の各委員会での参加率を確認してはどうか。また欠席が多い企業については、自社業務多忙なのか、環境会議の活動に魅力がないのか、（環境会議の活動の）負担が重くなるのを避けたいのかについて把握する必要がある。
- 委員：アンケート調査や調査結果の整理であれば、素人でもできるが、具体的なアウトプットを出すには、該当する業界の企業がメンバーに含まれていないと難しい。したがって、まずテーマを決めて、テーマに沿った体制をそろえることが必要ではないか。
- 委員：たしかにアンケート調査は素人でもできるが、アンケート調査票一つを考えても、素人が作成するものと調査に携わっている人が作成するものとは、回答のしやすさ等が大きく違う。
- 委員：メンバーは参加意図として、社会の役に立ちたいという企業もあれば、勉強目的の企業もある。CGLとしてどのような活動を行い、そのためにどのようなメンバーを集めるのかを決めることが必要であると考え。アウトプットを作成するチームと勉強目的のチームという2つのチームに分けて活動するのも一つの案だと考える。
- 委員：活動を普及啓発に絞る方法もある。
- 委員：事務局で複数案を提示して、次回ミーティングで提示していただきたい。
- 事務局：次回ミーティング前に提示し、ミーティングでご議論いただくこととする。
- 委員：どのような活動を行うにしても、常にアウトプットをイメージしておくことが必要だと考え

る。

(J I L Sの体制等について)

委員：環境は大きなテーマになっており、行政も力を入れ始めている。それに伴い、J I L Sの体制も強化すべきではないか。

事務局：今までの“団体”の活動は、“場”の提供だけでよかったが、これからはそれだけでは存在意義はなく「専門家としてのとりまとめ」と「産業界と官との橋渡し」が必要となる。検討したい。

委員：先ほど意見として出たが、メンバーは変更となる可能性があり、最終的にはJ I L S職員がとりまとめを行うこととなる。したがってJ I L S職員の人材育成していくことが必要である。

委員：企業への実務研修なども検討してはどうか。物流の現場を実際に体験することはたいへん意義のあることだと考える。

**【決定事項】**

- ・上記意見を踏まえて、事務局で複数案を作成し、次回委員長ミーティング前に提示する。

5) 第2期に向けた今後のスケジュールについて

**【主な意見】**

委員：議長の交代は形式的な問題であり、環境会議のテーマ及び運営方法を決めて、それをもとにスケジュールを決める必要があると考える。

**【決定事項】**

- ・第5回委員長ミーティングで検討する。
- ・第5回委員長ミーティング 2005年12月7日(水) 15:00-17:00

**VIII. 閉会**

以上をもって全ての議事を終了し、事務局の徳田は閉会を宣した。

以上